

ITガバナンス

基本的な考え方

変わらない価値を守るためのレジリエンス強化と、新たな価値提供に付随する新たなリスクへの対応を進めます。また、人からシステムへの継続的なシフトと、それを支える案件企画体制・開発体制の拡充およびシステムアーキテクチャの整備・統制を行います。これからも、社会インフラを担う金融機関として安定性と柔軟性を両立し、デジタルを活用してビジネスを牽引していきます。

システム安定稼働を支える レジリエンス強化の取組

デジタル化の進展に合わせ、内部・外部システム間での機能連携やサービスの拡大、お客さまの利便性向上に取り組んでいる一方、システム障害が発生した場合のお客さまへの影響も広範に波及する可能性をはらんでいます。そのため、システムの安定稼働を維持することの重要性はより一層増しており、システムリソースの増強やシステム障害の予兆検知、予防保守等のシステム障害の未然防止策に取り組むとともに、障害発生時の影響を極小化していくため、コンティンジェンシープランの継続的な改善や手動による障害対応のシステム化、障害訓練内容の高度化等、レジリエンスを強化していきます。

また、ITに関する取組の高度化を目的とした諮問機関として、「SMBCグループ・テクノロジー・アドバイザリー会議」を定期的に開催しています。

2024年度は、「量子コンピュータ・耐量子暗号」「生成AI」というテーマの下、昨今の社会動向を踏まえたテクノロジーの現状と今後の展望について議論を行いました。



SMBCグループ・テクノロジー・アドバイザリーについては、P.114をご参照ください。



SMBCグループ・テクノロジー・アドバイザリー会議

AIガバナンス

AI技術の発展や活用拡大に伴うリスク・社会的責任の高まりに対応するため、AIガバナンスの迅速な高度化にも取り組んでいます。2024年度には、SMBCグループ共通の指針として「倫理的で責任あるAIの利用」「安全で信頼性の高いAIの提供」「AIを通じた社会的価値の創造」を基本理念とする「責任あるAIポリシー」を策定・公開しました。また、AIを取り巻く多様なリスクに一元的に対応するため、AI活用案件に対するリスク関連部署横断の審査体制を構築し、その運用を開始しました。

社会課題解決への貢献と 新たな社会的価値の創造に向けた挑戦

グループのマテリアリティとして挙げている環境への取組として、2030年までに自社GHG排出量をネットゼロとすることを目指しています。SMBCグループの国内GHG排出量のうち、約4分の1を占めるのが電算センターであり、AIを活用した空調制御の最適化、太陽光発電設備の拡充等、既存センターの省エネに取り組むほか、計画中の次世代電算センターにおいては、さらなる省エネにより環境負荷を抑制していきます。また、ITを活用した日本の再成長への貢献として、SMBCグループ内のデジタル・IT教育組織である、デジタルユニバーシティで企画・監修した社内向け研修コンテンツをお客さまに提供し、幅広いデジタル教育機会を創出しています。その他、社会的価値の創造に資する取組に機動的にIT資源を投入し、SMBCグループ全体でITを活用した社会課題解決に貢献していきます。